

1 自己評価及び外部評価結果 (※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092000060		
法人名	医療法人 裕紫会		
事業所名	あがら花まるグループホームⅡ	【ユニット名:】	はまぼうユニット
所在地	和歌山県御坊市藤田町藤井2118-1		
自己評価作成日	平成25年2月12日	評価結果市町村受理日	平成25年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の、悩みや不安などじっくりと聞きながら、支え合って過ごせるように支援している。また、利用者一人一人を生活者と捉え、炊事、洗濯、掃除などが協力し合いながら日々を過ごせるように支援している。
地域交流も積極的に行い、行事には大勢のボランティアの方々や地域住民の方々が来て下さり、地域を盛り上げるよう取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JiyosyoCd=3092000060-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成25年2月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人が運営する隣接の地域密着型複合施設と共に、御坊市内の地域密着型サービスを一括し、地域の高齢者や認知症の人への支援の拠点としての役割を担っている。住宅地に溶け込んだ平屋建てのホームは解放的で、地域とつながった入居者の暮らしを支えている。「花よりだんご、笑うあがらに福来たる」をホームの理念として掲げ、笑顔のある暮らしができるよう支援している。対応が困難なケースにも、医療と連携して、専門職としてチームで取り組み、入居者本位の視点を持ったケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の“あなたがあなたらしくある暮らし”の下、事業所理念の「花よりだんご、笑うあがらに福来たる」をもとに、よく食べ、よく笑い、いつまでも健康で居られるよう日々ケアに努めている。	法人理念、事業所理念に基づき、入居者が笑顔で暮らせるためには、職員の笑顔が大切であるということを個々の職員が常に意識しており、理念を日々のケアで実践できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校、幼稚園との交流もあり、子供達と触れ合う機会がよくある。また、地域の催事や行事ごとには、職員が積極的に参加し、住民との繋がりを持っている。	近隣の小学校、幼稚園との交流が頻繁に行われ、運動会には専用の観覧席が設けられている。「あがら花まる」として自治会にも加入して、地域の一員として地域住民との関わりを持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小中学校に出向き、車椅子体験や認知症サポーター養成講座のメイトをしている。また、運営推進会議で、年2回、拡大版として地域の方々を招いて講習会を開いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、随時サービス内容や取り組みの状況について報告を行っている。また、年2回拡大版の会議を開き、地域住民の方々対象に、講習会を実施している。	隣接の施設と合同で行われている。年6回開催のうち2回はテーマを設けて、広く地域住民を対象にした情報発信を行い、運営推進会議を通して地域の拠点としての役割を担っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時市役所へ足を運び、報告連絡を行っている。福祉課や包括の職員とは顔なじみの関係が出来ており、協力関係が築けている。	相互に協力関係が築かれており、市の高齢者対策課や認知症ケアに対する取り組みにも協力し、事業所への協力も得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加し、身体拘束0を掲げ取り組んでいる。また、日々のケアの中でも、身体拘束にあたるような事はないか、スタッフ間で話しあい、取り組んでいる。	常に入居者の立場に立ち、広い見地で拘束がないよう気をつけて話し合っている。拘束しないで入居者の安心と安全が得られるよう夜間の徘徊にもチームで取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等を通じ、啓発を行っている。また、日々のケアの中でも虐待に当たるような事がないか、スタッフ間で話し合っている。		

【事業所名】あがら花まるグループホームⅡ ユニット名:はまぼう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に毎年参加している。現在、入居者様の中で、日常生活自立支援事業から成年後見制度の活用を検討している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、契約内容及び重要事項について、書面にてご家族様に説明を行っている。また、その都度、不明な点や疑問点はないか尋ね、理解・納得の上サインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居前には、ご本人や家族様からの要望や意見を頂き、運営に反映出来るよう努めている。また、日頃から家様から気軽に意見が言いやすいよう、信頼関係作りにも努めている。	年末の餅つきなど、家族が参加できる行事で関係を深めてコミュニケーションの機会が多くなるように取り組み、家族の意見をまとめて運営に反映させようとしている。	普段の会話の中からの意見や要望を受け取るとともに、家族会の開催や、アンケートで尋ねるなど、いろいろな機会を設けることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを通じ、その都度職員の意見や提案の聞き取りを行い、可能な限り改善出来る様努めている。日頃のコミュニケーションの場でも、意見や提案の聞き取りをするようにしている。	管理者は、職員の声をよく聞くように接しており、出された意見や要望は迅速に検討し運営に反映できるように心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夏季、冬季賞与は、各職員が自己評価をし、管理者が個々の考課表を作成し、勤務態度や実績、努力を賞与額に反映させている。また、各職員に適した研修に参加出来るよう配慮し、やりがいに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に合わせ、研修への参加を呼び掛けている。また、会社から研修の受講を推薦し、能力に応じ研修へ参加してもらい、人材育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や実習生の受け入れ等を通じ、他事業所の職員と交流する機会作り、その中で、自施設と他事業所との違いを話し合い、自施設の質向上に向けた取り組みが出来るようにしている。		

【事業所名】あがら花まるグループホームⅡ ユニット名:はまぼう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人との面接を行い、集めた情報をもとにカンファレンスを行い、本人が安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前に、ご家族様と面接を行い、要望や困り事など聞き取り、可能な限り事前に課題の解決に取り組み、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に利用していたサービス事業所又は、ご家族様からの情報をもとに、必要な支援を見極め、必要時は他のサービスも利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様一人一人の出来る事を把握し、個々の役割の中、職員と協同してグループホームの場を、暮らしの場として生活が送れるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日々の様子を随時報告し、ご家族様との関係を途切れないよう働きかけている。また、病院への受診、行事への参加の呼びかけをし、共に支え合い、暮らして行けるよう関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にご本人とご家族様からの情報収集を行い、ご本人の要望やこれまでの生活歴が入居しても途切れないように、ご家族様にも協力を頂きながら支援している。	入居後も個々の入居者の趣味や習慣をできるだけ継続できるよう取り組んでいる。友人、知人、家族との関係が途絶えないよう支援し、外出の際に馴染みの店に立ち寄るなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	炊事、洗濯、掃除など、グループホームでの生活を共同生活の場として捉え、入居者様同士が共に生活を送っていると感じられる支援を心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了するにあたり、ご本人、ご家族様に随時相談や必要な支援を行っている。		

【事業所名】あがら花まるグループホームⅡ ユニット名：はまぼう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に本人の意向を聞き取り、センター方式に記入し職員間で情報の共有を図っている。また、日頃の会話の中で、本人の意向を聞き取り、職員間で情報を共有しケアに活かすよう取り組んでいる。	入居者と向き合い、一人ひとりの思いを知ることができるように接している。得られた情報は記録して職員間で共有し、本人本位のケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族様から情報収集を行い、また、入居前に利用していたサービスの担当者からも情報を得て、入居後の生活がスムーズに移行できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの出来る事へのアプローチを行い、個々の役割のもと、他の入居者様と共同して生活が送れるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング・カンファレンスを通じ、現状のケア方針で問題等発生していないか話し合い、必要時はケアの見直しを行っている。	アセスメントからその人が必要とするケアを見だし、どの職員にもわかりやすい根拠のある計画が作成されている。職員間や家族との話し合いの機会を多く持ち、必要な見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態、本人の言葉を記録し、その時々に入居者様の思いを職員間で共有できるようにして、介護の実践に役立てている。しかし、全ての事に対応が出来ていない点もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズを聞き取り、買い物支援や行きたい場所へ出かけるなど、その時の状況に応じ対応している。場合によっては、ご家族様にも協力をお願いをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園や小学校と協力しながら、互いの行事などには積極的に参加し、交流を図っている。また、サロンや趣味の教室に参加し、楽しみをもって生活が送れるよう支援している。		

【事業所名】あがら花まるグループホームⅡ ユニット名:はまぼう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の付き添いは、ご家族様の援助をお願いし、必要時は職員が付き添うようにしている。受診時は、日頃の様子をかかりつけ医に書面やFAX等でも報告を行っている。また、かかりつけ医の往診もして頂いている。	入居前からのかかりつけ医との関係を継続して協力関係を築き、家族と情報を共有して医療面をサポートしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、訪問看護の看護師と、入居者様の日頃の様子や気づきについて情報の共有を図り、その都度相談し、適切に医療と介護の連携が図れるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、医師との情報交換や地域医療連携室と連絡を取り合い、かかりつけ医とも退院に向けての相談をする中で、退院後も施設で安心して過ごせるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、入居時にご家族様と話し合い、本人、家族の意向を尊重し、可能な限り意向に沿えるよう支援している。また、意向が変わりはないか随時再確認している。	終末期には医療との連携体制を整え、職員が不安なく対処できるようチームで取り組んでいる。家族と随時良く話し合いながら意向に沿えるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加したり、緊急時対応マニュアルやフロー図を配備はしているが、実際に緊急時や急変時に、迅速且つ的確な対応が取れるか不安を感じている職員もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策について、地域住民の方々にご理解を頂き、緊急避難時の協力体制を築いている。また、年に2回の防災訓練を行い、昼夜を想定した訓練も行っている。	近隣の住民の連絡網を作って、災害時の協力体制を整えている。一昨年の水害の経験から気づいた課題を踏まえて、食料品等の備えを見直している。	

【事業所名】あがら花まるグループホームⅡ ユニット名:はまぼう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時々状況を判断し、その人にあった言葉かけや、支援を行っている。また、自尊心が傷つくような事があれば、さりげなくフォローを入れたり、自信を失わないような関わりを持つよう努めている。	羞恥心にも配慮して、プライドを損なうことがないように、常に、その人の立場で考え、一人ひとりにあった言葉かけや介護方法で対応するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、自己決定が出来るよう選択肢を並べたり、自己決定が行えるような言葉かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの日課や習慣を把握し、その方の生活リズムで過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その時の気分にあった洋服が選べる支援や、起床時、入浴後のスキンケアを行っている。また、お誕生日には、その人らしい物(洋服、化粧品、置物等)をプレゼントするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みや要望を随時間き取り、献立に取り入れている。食事の準備も、買い物から始まり、料理、盛り付けなど、職員と一緒にしている。配膳、下膳、食器洗いも入居者様と職員と一緒にしている。	入居者個々の持てる力を活かせるよう、自然な形で職員と共に用意から片付けまで行なわれている。食事の楽しみを共有できる関わりの中で個々の機能の維持を図っている。	嚥む力・飲込む力が弱くなり、介助を必要とする入居者に対しては、さらに本人の立場に立った声掛け等工夫し、一層おいしく食事を楽しめることを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、魚、野菜とバランスよく栄養が摂れるよう献立を職員が考えている。形態も、個々の状態に応じて変えている。水分は多種多様な飲み物を常時用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた口腔ケアの声かけ及び見守り、介助を行っている。		

【事業所名】あがら花まるグループホームⅡ ユニット名:はまぼう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の一連の動作の中で、どの部分に介助が必要なのかを知り、可能な限り、自分でトイレでの排泄が行えるよう支援している。	自力での排泄が困難になり、おむつを使用している場合でも、座位が保てる場合は1日1回でもトイレで排泄できるよう関わり、自信を失うことがないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな入居者様には、起床時に冷たい飲み物や乳製品を摂って頂くなどしている。また、排泄時に腹部マッサージを行い、自然排便が出来るように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間を特に決めることはせず、その時の入居者様の状態に合わせて入浴出来るよう努めている。入浴日以外に、足浴の支援も取り入れるようにしている。	夕方までの時間帯で自由に入浴できるよう支援している。夜間に不穏がみられる場合など、ケアプランの中で必要とされる場合は体制を整えて、夜間の入浴を支援する場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は、自宅から使い慣れた物をご家族様にお願いし、入居時に用意して頂いている。その他、居室内の環境も、安眠できるような温度、湿度を保てるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが現在服用している薬の一覧表と、薬が及ぼす作用副作用についてのファイルがあり、常に職員が周知、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の日々の生活の一部に、役割が取り入れるよう支援している。入居者様の重度化に連れて、非日常的な楽しく過ごせる時間が少なくなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は日々取り入れながら、非日常的な外出も、その時々入居者様の希望を聞き、取り入れるようにしている。	入居者の行動を把握して日常的に戸外へ出られるよう支援しており、自由に一人で周辺を散歩している人もいる。本人の意向を汲み取って家族に伝え、本人が行きたい場所に家族の協力で行けるよう関わっている。	

【事業所名】あがら花まるグループホームⅡ ユニット名:はまぼう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居前にご家族様にも相談した上で、入居者様にお金(小遣い程度)を所持して頂いている。買い物に出かけた際は、欲しい物、必要な物の購入を、自分で支払いが出来るよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい時は、その時の状況に応じ、掛けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、近隣の住民の方が、定期的に花を生けにきてくれている。建物は、紀州材を使用し、木の温もりが感じられ、落ち着けるような雰囲気作りをしている。居間の各所にソファや椅子を置き、どこでもくつろげるようにしている。	共用スペースで過ごす時間が多いので、それぞれが自由にくつろげるよう、随所にイスやソファが配置されている。テーブルに季節の花が飾られ、明るい雰囲気になっている。	時計、表札、掲示物など、入居者の目線を考慮し、それぞれ入居者の視野の中で最も効果的な位置に配置し、よりいっそう入居者が充実した生活を送れることに期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の所々にソファや椅子を置き、入居者様がいつでもくつろいだり、談笑したり、休息できるような環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力の下、居室には出来る限り使い慣れた物や家具、寝具や写真等、取り揃えてもらい、可能な限り、自宅に居た時の環境に近づけ、生活感が持てるようにしている。	ベッドの位置も様々であり、自宅から馴染みの物を持ち込んでいる部屋、ベッド以外のものはほとんどみられない部屋など、本人や家族の好みの部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、手すりを要所に設置し、転倒の防止を行っている。また、目で見え場所や物がわかるように工夫している。		